連載

大河ドラマ誘致推進漫画作品「ぼくらの義仲物語」より

まんがでわかる木曽義仲

第2回　乳母子（めのとご）の絆

津幡町と縁の深い平安時代末期の武将、木曽義仲。義仲の隣には、ただの家来とは異なる特別な存在が常に寄り添っていました。

だいき　義仲って、生まれたのは今の埼玉県なんやって。

あさひ　あれ？でも木曽義仲って名前は、長野県の木曽って場所で育ったからやって聞いたよ。

あかり　生まれてすぐお父さんが甥っ子に討たれて、木曽に逃げたみたい。

だいき　同じ一族に殺されたん!?怖い時代やな～。

あさひ　でもそのお陰で、生涯の仲間になる兼光（かねみつ）、兼平（かねひら）、巴御前（ともえごぜん）に会えたんやろ？

だいき　親友ってこと？

あかり　ううん、兄妹の方が近いかも。当時は「乳母（めのと）」っていうお母さんの代わりみたいな人がおって、4人とも同じ乳母に育てられた「乳母子（めのとご）」なんやって。

あさひ　一緒に育ったから絆が深いんやね！

不遇の生い立ちと乳母子との運命の出会い

義仲の幼名は「駒王丸（こまおうまる）」といい、生誕地は武蔵国（現在の埼玉県嵐山町）と伝えられています。源氏の由緒ある家系に生まれましたが、その頃父源義賢（みなもとのよしかた）は、兄の源義朝（みなもとのよしとも）と領国を争っていました。1155（久寿2）年、義朝の子、義平が義賢を討った際、2歳であった駒王丸は敵方の武将斎藤実盛（さいとうさねもり）の手によって密かに木曽に逃がされます。

そこで木曽の豪族、中原兼遠（なかはらのかねとお）に迎えられ、兼遠の子である兼光、兼平、巴御前らと共に育ちます。現存する資料では木曽での日々を詳しく伺い知ることはできませんが、挙兵後の彼らのエピソードは、長い年月で育んだであろう強い絆を物語っています。

次回予告　だいき「義仲たちのことはわかったけど、今とずいぶん様子が違うなあ。ちょっと平安時代のことを調べてみよう。」